

作文を書くころ 5 五感を使って感動を明確に伝えよう (保護者と児童・生徒へ)

ニュージャーシー補習授業校 (2012年8月25日)

よい作文には、「色」「音」「匂い」「味」「感触」があります。

五感を使って書くことです。五感とは「目」「耳」「鼻」「口」「皮膚」です。まず目を使った作文です。

次の①と②は、どちらがよい作文でしょうか？なぜでしょうか？「見て書くこと」は理科の実験や観察、社会科の社会見学など作文のみならず多くの場面で必要になってきます。ビデオで撮影するようにビデオを合わせて書くのです。

① 「運動会」

学校で運動会がありました。

ぼくは徒競走に出場しました。

一生けんめいに走りました。

一等になりました。うれしかったです。

② 「徒競走」

パンとピストルの音がしたとたん、夢中でかけた。

第二コーナーをまわるころ、ぼくの目の前に白いシャツがはためくのが見えた。

鈴木君だ。ぼくは、鈴木君の白いシャツの背中を見つめて走った。

シャツの背中に黒ペンで書かれた「鈴木」の名前がぐいぐい目前にせまってくる。

もう少しだ。もう少しでぬかせる。

「鈴木」の名前が見えなくなると同時に、ぼくの胸がゴールのテープを切った。

描写 美術でいうデッサンです。読み手に様子がリアルに伝えるために「目」「鼻」「皮膚」を使っています。

その女の子の髪の毛は、カリカリにトーストしたパンのはじつこのようなやわらかいこげ茶色で、ひなたぼつこの匂いがした。さわると、まるで昼寝をしている子ねこのように、あたたかく、ふわふわと柔らかかった。

比べてみましょう。場面の様子が伝わってくるのはどちらでしょうか？ ①ですか？②ですか？

①家の前で工事をしていた。音がとてもうるさかった。

←

②家の前で工事をしていた。「ガガ、ガガ」という地ひびきがぼくの背中に、こだました。

① 先生の言葉に感動した。

←

② しずくが水面にぼたんと垂れて、そこから、ぼよんと輪が広がっていくような、

そんな感じで、先生の言葉が心の中に静かに広がっていった。

よい作文の真似をして書いてみましょう。視写することも「真似」をする意味で大切な学習です。